

私たちの活動や意見を
仲間で共有します
会費は県と日本平和委
員会の活動も支えます

土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会
事務局：土浦市鳥山2-530-
296
ホームページ：//heiwatutiura.
web.fc2.com/

ヒバクシャ国際署名と9条改憲NO! 3000万署名を進めよう

県平和委員会と土浦平和の会
は、既に推進中の「ヒバクシャ
国際署名」に加えて、9月から
始まった「安倍9条改憲NO!
全国統一署名」を同時に進めて
いくことを確認しました。会員
のみなさんに、一人10筆を目標
に取り組んでいただくことを提
起しています。

会員の方々は、平和の会の他
にも、9条の会や新婦人の会な
どに参加されています。そして、
それぞれの団体でも集約目標が
設定されていることと思いき
ますが、それらとは別に、平和の会
に集約していただく分として一
人10筆ということ。ですから、
30筆、40筆と一人で集めな
ければならない方も出てくるわ
けで、大変なことは確かです。

人口4.3人に1筆

しかし、3000万筆を集約する
ということは1億2700万人の人
口の4.3人に1筆の割で署名を
していただくということです。
大変なのです。

前に取り組んだ「安保法制＝
戦争法廃止を求める署名」は20
00万筆集約を目指して、1400万
筆の到達点でした。

土浦平和の会 秋の宣伝行動

10/28(土)
かすみがうら市
10/29(日)
土浦市
9条改憲反対、
東海第2原発廃炉
などを訴えます

ヒバクシャ国際署名とは

「後世の人ひどか生き地獄を
体験しないように、生きている
間に 何としても核兵器のない
世界を実現したい。」

2016年4月、平均年齢80歳を
超えたヒロシマ・ナカザキの被
爆者が国際署名を始めました。
国連総会に2020年まで毎年届け
ます。全世界から数億の署名を
集めるとしています。10月初め
には500万筆が提出されました。

呼びかけ人被爆者は、坪井直、
谷口稜暉、岩佐幹三の3氏です。

核兵器禁止条約の締結を日本
政府に求めていくためにも重要
な署名です。

憲法9条を守ろう 10.21県南大集会

10/21(土)10時～
つくば市中央公園
集会とパレード
カレー、クッキー店
カフェ、フリマも

3000万署名とは

「安倍9条改憲NO! 全国市民
アクション」のキック・オフ
(発足)集会が9月8日夜、東京
都中野区にある「なかのZER
Oホール」で行われました。発
起人・呼びかけ人らがスピーチ。

「広範な人たちと共同して“地
殻変動”を起こし、安倍政権を
倒して憲法9条改悪をやめさせ
よう」「3000万人を目標に
集める憲法9条改悪に反対する
全国統一署名をはじめ、今日か
ら全国各地で運動を広げてい
こう」と呼びかけました。

今度の総選挙はまさに改憲勢
力と護憲勢力との闘いでもあり
ます。

「どんな手段を使っても安倍政権を止めなければならぬ。もう一度政権交代を実現して身勝手に政治を歪める安倍政権を退場に追い込みたい。私は皆さんが大好きだ。これから皆さんと一緒に行動し、もう一度我々の理想の社会を創る。そのために名を捨て実を取る。その決断をぜひご理解いただきたい。」9月28日午後、民進党本部で開かれた両院議員総会。代表の前原が熱っぽくこう語ると、万雷の拍手が沸いた。ここで前原が示した方針は、前原一人を民進党に残して、全員が離党し、都知事の池田百合子率いる希望の党に公認申請するという内容だった。事実上の解党宣言と言えるが、特に異論もなく了承され、所属議員はむしろ高揚感に溢れていたという。

前原誠司。昭和37(1962)年4月30日生まれの55歳。京都市左京区出身。京都2区選出。生前裁判所勤務だった父の影響を受けてか、一浪して京都大学法学部入学。母子家庭で育つため、在学中は、学費・生活費捻出のため、バスの添乗員から魚の卸売市場、喫茶店ウェーター、塾講師などに精を出しつつ、高坂正堯（こうさかまさたか＝非武装中立論が席卷する中、現実路線を主張した京大国際政治学元教授）の下で学び、卒業後の進路を同教授に相談したところ、「外交官希望とのことだが、そこは東大が羽振りをかかせているし、お前はおやじがいないからどうか。政治の道に進むなら松下政経塾で学んだら。」と助言を受け、入塾した。当時から「外務大臣になって国の役に立ちたい」と燃えていたという。

1991年史上最年少の28歳で京都府議に当選。翌年、野田佳彦、池田百合子などとともに日本新党へ参画。93年、日本新党公認・新党さきがけ推薦で京都1区から初当選（池田百合子は旧兵庫2区から当選。京都2区からは共産党穀田氏が初当選）。その後、崩壊した細川政権の日本新党を見限り、新党さきがけ、民主党・民進党と渡り歩いた。そして、一時的には政権につき、国土交通大臣、外務大臣を務めた。

こう見てくると、前原は国民のために政治家になったのではなく、自らの野望・外務大臣になりたいために少しでも政権をとれそうな場所を目指してきたと言える。では、その外交観はどうか。

2005年12月2日、前原は在京大学での講演で「日米安保と防衛の一方的な依存は、アメリカへの甘えである」とし、同8日のアメリカでの講演では、中国の軍事力拡大を念頭に、「現実的脅威に毅然とした対応が重要」とし、シーレーン（海上交通路）確保のために集団的自衛権を行使できるよう、憲

法改正の必要性を訴えていた。

この野望と思想は、まさに、池田百合子や安倍晋三とまったく同じ方向性をもつものであり、民進党に籍を置くこと自体が間違いだったのだ。

前原が久しく距離を置いていた池田百合子に接触したのは9月18日、「首相、衆院解散を決断」の報がきっかけだった。池田新党の動きを受けて、民進党では離党者が続出していた。野党共闘に反対する人たちである。一方で、水面下で共産党との選挙協力を進めていたが、池田新党ができれば野党間の刺し合いとなり、自公に漁夫の利を与えることになる。先の参院一人区での野党統一候補の勝利は3分の1に過ぎない、このままでは政権には届かないとの思いが前原の頭をよぎった。

池田にとっても、前原からの提案は渡りに舟であった。新党結成といっても、組織は整っておらず、資金もなかった。民進の手足である連合の組織力と政党交付金を貯めこんだ民進の150億円とも言われる金庫は喉から手が出るほど欲しいものだった。二人の思惑は一致した。

こうして、希望の党は華々しく出港するかに見えた。マスコミもこぞって、「自公対希望」の構図を大々的に描いて見せた。しかし、「安保法制容認」「9条を含める改憲に賛同」「外国人の地方参政

権付与に反対」等の踏み絵をかざした差別者池田百合子の姿がテレビに大映しされると、国民の希望への期待は急速にしぼんだ。民進出身者の中でも、無所属での出馬、新党立憲民主党への合流者がかなりの数になった。こうして、「自公対希望」の2極構造は、「自公とその補完勢力対3野党と市民」の2極構造に変わった。前原が思い描いた構図は消えた。

私は、解党を決した3日前（9月25日）には、市民連合と政策合意し、野党4党の統一候補が自公候補と闘う構図を作り上げた民進党代表が、なせ一晩で解党の道を決断したのかがまったく理解できずにいた。代表の意向だけで解党の方向性が決められ、国会議員の了承だけで解党が決定される党内民主主義のかけらもない手続きにも驚きあきれたが、それよりも前原の野党に対する裏切り行為がなぜ生まれたのかを探りたかった。そして、長々と履歴をたどって納得した。今さらながら民進党の核(コア)のなさにもあきれた。この裏切り・野党分断行為が、各小選挙区で自公候補を利することは間違いないが、それでも護憲連合の前進を勝ち取らなければ日本が危ない。

(石井 明)

リレー随想

前原誠司

裏切りの誤算